



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が
ともに手をとりあっ
て未来への飛躍を願
うもので、親と幼稚
園が子どもを育む姿
を岩手の「い」に象
徴している。

広報岩私幼連

(題字は工藤巖元岩手県知事)

VOL

108



「雪のおふとん、暖かい？冷たい？」

改訂教育要領の主体的・対話活動の学びについて



(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 坂本 洋

1、はじめに

新春を迎えた平成三十年は、新しく改訂された幼稚園教育要領が本格実施される年です。その概要をまとめますと、子ども達の主体的遊び、環境を通しての総合的な指導は変わりありませんが、その中でもアクティブラーニングとして子ども同士の対話的活動を中心に、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かたり、何ができるようになったか。そのできごとを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。を子ども達自身のかかわりの中で深めることが、学びに向かう力の土台であることを強調しております。

これまで子ども達の発達に応じた個別の知識や技能の基礎を育むことを指導して参りましたが、この度はその上に、子ども同士の対話的活動をより活用し、粘り強くやり遂げることや他者との協調、思いやり、更には他者から認められ受け入れられるかかわりを通して、自分の言動に自信を持ち自尊心を育み、自分の感情をコントロールする自制心の育ちをより確かなものにする、即ち非認知能力の育ちを今まで以上に意識していることが特徴で、子ども同士の対話的活動がキーワードとなりました。

2、対話的活動の前に育てるべきこと

しかし、幼稚園教育における子ども同士の主体的な対話活動ですが、単なる話し合いではなく、学びに向かう力や人間性の基礎を培うことをねらいとして掲げることは、長年の幼児の発達や育ちから経験的にそう容易なものではないとの認識です。入園間もない3歳児のクラス活動を見ても、発達年齢的に理解力や知識力が乏しいうえに、且つ自己主張、自分の思いは強く表現するが、他者の声や思い、考えを聞く力が希薄な状況で、主体的な対話を中心にとっても中々大変なことです。教師は全員が同じ理解をしていると思っていますが、幼児の発達段階の幅の広さを考えながらの対応が重要な役割となります。

まずは、私たちは幼児の発達段階の認識力や理解力の育ちを優先します。理解力は発達年齢相応の聞く、覚える、知る力の育ちが土台と言われます。そのうえに考える力、判断する力が加わり、自分なりの表現、意思の表出があつて、本来の理解力に合った活動、育ちが行われると考えられています。

ですから、理解力を育て強化することは、聞く・覚える・知る力の育ちが重要です。ところが、最近の子育て相談に、どうもお話が聞けない、聞かないので困ると嘆かれる事例があります。色々理由がありますが、一般的に乳幼児期での言葉がけの希薄、聞くことより話させることを重視、また環

境的にマスメディアの刺激が多く、しっかり言葉として聞き取ることに関心が低い等々の指摘があり、言葉を聞くことの繰り返しや習慣が必要であることに気づきます。覚える、知るについても、①見聞きしたことを心にとどめる（記憶する力）、②学んだり経験したりして身に付ける（習得する力）、体や心に感じる（感性の力）等がしっかり身につくように普段の生活でかかわることが、幼児教育での対話活動の前提として育ちの重要事項です。

3、主体的・対話的な深い学びの土台

このような前提の上に新指導要領の対話活動を重視した、育成すべき資質や能力の整理イメージは、小学校、中学校そして高校教育までも一貫して行われるもので、まずは個別の知識や技能（何を知っているか、何ができるか）を育む、二つ目は思考力・判断力・表現力等の学び（知っていること、出来ることをどう使うか）、三つ目として、学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界とかかわりより良い人生を送れるか）の三つの柱が提示され、新しい時代に必要な学習すべき資質や能力が明確に提示されています。

私どもは、本年度から実施される新要領の目標に沿い、県連教研活動としてより一層の専門性資質向上研修に励む所存です。



◎市町村からの補助状況

市町村名	保護者が受け取るもの（年又は月額・円）	幼稚園が受け取るもの（年又は月額・円）
盛岡市		盛岡市私立学校振興補助金 (1)人数割額 園児1人につき 1,000 (2)学校割額 1園につき 230,000
宮古市	幼稚園就園奨励費補助金（市単独補助分） （H28実績） 1,588,400 内、台風10号による被災者対応分 814,000 保育所保育料との格差是正のため、幼稚園就園奨励費補助金（国庫補助分）に上乗せ補助（所得の階層や入園料の支払いの有無に応じ、保育所保育料との差額を上乗せ） 被災幼児就園支援事業費補助金（市単独補助分） 私立幼稚園預かり保育料軽減支援事業費補助金（H28実績） 5,472,200 （認定こども園への補助額も含む。） 保護者の就労等の形態に応じ、1日100円～300円の補助。（幼稚園が預かり保育料を軽減し、軽減分を市が幼稚園に交付）	私立幼稚園教育振興事業費補助金（H28実績） 2,811,400 （認定こども園への補助額も含む。） 職員の研修、備品の購入など資質の向上や環境の改善を目的に、教職員数・園児数をもとに補助 均等割1園 250,000 教職員数割1人 10,000 学級数割1学級 10,000 園児数割1人 1,470
大船渡市	私立幼稚園教育支援補助金（対象者13名） （H28実績） 399,280 〔内訳〕 ・第3子以降保育料、給食費を無料 4名 301,700 ・同時入園の2人目 保育料、給食費を半額 9名 97,580	私立幼稚園運営事業補助金（H28実績） 508,500 各月初目の在籍幼児数の合計×500円
花巻市	幼稚園就園奨励費補助金（市単独分） 満3歳未満（2歳児）について、国交付基準と同様に補助 （H28実績：73名） 3,665,800 第3子以降保育料等負担軽減補助金（市単独補助） 子育てに係る経済的負担を軽減するため、保育料等納付額から就園奨励費補助金を控除した額の全額又は1/2を補助 （H28実績：80名） 6,068,000	私立幼稚園運営事業補助金（7園） （H28実績） 8,100,000 〔内訳〕 経常経費制 6,480,000 納付金割 1,620,000 私立幼稚園預かり保育事業補助金 県の同種補助金（平成20年度までの算定方法）の1/2の額
北上市		私立幼稚園運営費補助金 3,392,000 （1学級 50,000） （園児1人 2,000）
遠野市	遠野市私立幼稚園保育料助成事業（H28実績） 615,700 第1子奨励費補助金控除額の5% 第2子奨励費補助金控除額の10% 第3子以降 奨励費補助金控除額から月額4,800円を減じた額を助成 （保育料には月額保育料・預かり保育料・給食費含む）	私立幼稚園運営費補助金（H28実績） 527,500 1園あたり 400,000円+（1人あたり2,500円×人数）
一関市		私立学校運営費補助金（2園） （H29実績） 2,769,000 基本額 2,215,000 園児割 332,000 障がい児割 111,000 教員割 83,000 施設割 28,000 私立幼稚園第3子以降保育料等補助金（2園） （H28実績） 2,704,700 第3子以降の入園者の入園料及び保育料の減免相当額を補助（就園奨励費を除いた額）
釜石市	実費徴収に係る補正給付を行う事業 生活保護を受給している世帯を対象に、特定教育・保育施設に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用または行事への参加に要する費用等を助成。金額は入所している施設・園児の年齢によって異なる。	私立特定教育・保育施設等振興事業補助金 3,000 (1)園児1人 (2)重度障がい児1人あたり 月額74,140まで (県補助額を除いた額) (3)軽度障がい児1人あたり 月額30,000まで (県補助額を除いた額)
八幡平市	保育料助成（第3子以降保育料無償制度） （H28実績）10名 1,195,000 （保育料には、入園料、検定料、施設整備費、給食費を含む）	運営費補助金 基本額 月額650/人 歯科検診事業分 1園 108,000 園児1人 360
奥州市		私立幼稚園運営費補助金 3,316,000 （均等割 70% 2,321,200） （園児費割 30% 994,800） ○1園あたり 257,900 （2,321,200円÷9園） ○園児1人あたり 約2,125 （994,800円÷468人） 私立幼稚園運営補助（認定こども園の1号含む） 特別支援補助…障がい等のある園児や特別な教育的ニーズを有する園児を受け入れている園に対する補助 ○障がい児（審査会認定児） 1人あたり月額23,500（H28実績：6園）
滝沢市		私立幼稚園預かり保育推進事業補助金 年間を通じ預かり保育を実施している幼稚園で、1日の平均預かり保育時間により交付 2時間を超え4時間以下 800,000 4時間を超え5時間以下 960,000 5時間を超え6時間以下 1,120,000 6時間を超え7時間以下 1,280,000 7時間を超える場合 1,440,000
二戸市		民間保育施設連絡協議会補助金（私幼団体） 民間保育施設設置者で構成される協議会に子育て支援事業の充実を目的として補助 300,000
雫石町		私立幼稚園運営費補助金 420,000 （園児1人 12,000）
岩手町		運営費補助金 350,000 （40人まで 8,750） （園児1人）
紫波町		運営費補助金 1園 350,000 預かり保育事業補助金 1園 500,000
大槌町	大槌町私立幼稚園就園奨励費補助金（町単） 第2子以降保育料無料化 （H28実績） 32名 1,097,300 （H29実績見込） 23名 1,424,900	私立幼稚園事業補助金 均等割 1園 100,000 園児数割 1人 約2,400
山田町		私立幼稚園振興費補助金 454,000

平成29年度総合研修会

平成30年1月11日・12日の2日間にわたり、花巻温泉ホテル千秋閣に於いて開催されました。参加園は71園で参加者は初日417名、二日目187名を数え、全体会のほか経営セミナーと教員研修の分科会に分かれて開催されました。



講演『乳幼児期の子どもを伸ばす脳教育の新常識』

講師 医学・医学博士 加藤 俊徳 先生



人生は長くなり100年生きるようになったが、最も大切な時期は0歳～6歳であり、その間に大きな影響を与えている。

子ども達の将来の重要な時期を担っている先生方に脳の話が出来る事は大変光栄である。

加藤先生は、講演の中にも先生ご自身の生い立ちや家族のことまた、実践を交えながら楽しくお話をしてくださいました。

乳幼児期に最も大切にしたい事の一つ目として、子ども達と同じ時期を共有することである。楽しい記憶を共有することは脳に残っている。先生方と接した子ども達が大きくなった時に、生き生きと過ごしたことが人生の力になっていく。

二つ目として自然が脳の強化書である。

・**アルバムを作ること**（思い出を作る）記憶を残すことで人生を知ることが出来る。スマホではいけない。必ず自分で紙を使って作るべきものである。過去を振り返る事で次の未来を考えることができるようになる。

・**夕日や朝日を見ることで脳を強くする**。毎日朝昼夜が来る。その中で人間が生きるために頭も体もそのようなシステムになっている。光りに当たらず家の中ばかりいて動かないと睡眠障害になる。子どもはしっかり寝てしっかり起きること。

自然のサイクルをしっかり自覚しながら脳に習慣づけていくことが大

切であり、食事も同様である。

○発達障害について・・・0歳～6歳はクローズアップする年代である。

特に4歳位になると、言語発達遅滞が明らかになる。発達障害の特徴として、朝起きられない、朝ぐずる、爪をかむ癖がある、コーラが好き、動き回る、おこりんぼうである。

ADHDは10人に一人、大人は20人に一人位いる。大人になると多動性は消えていくが、忘れ物や1つのことしかできないなどの症状が見られる。子どもに多いのは「発達性協調性運動障害」である。お手玉ができない。お手玉をすることで目と手と同じに使える運動系と視覚系が連動するので脳が鍛えられる。

男の子は人の話が聞けない（10人のうち4割）見て行動する。女の子は話を聞いてすぐ行動に移せる（視覚性記憶が育っている）

話を聞くようになるには子どもの話をしっかり聞くこと。聞いてくれる態度が目に映っているので聞く力が育っていく。

○脳の成長に必要な栄養素は3つある。

1.酸素 2.食事（栄養） 3.経験（情報）

子どもの能力を育てるために何をすればよいか。

・脳を育てる・脳が成長する過程がある・脳に楽しい記憶を貯めること（脳貯金）である。

○脳を成長させるために

・脳教育の新常識1

0歳～6歳までの脳は毎日成長している。脳の重さは右肩上がりにどんどん増えているが、この時期に先生方は子どもと接している所以脳の新常識の一部になっている。

・脳教育の新常識2

脳は成人しても未完成一生成長していく。ほっといては脳は成長しない。経験した分だけ形を変え成長していく。

・脳教育の新常識3

脳は3歳では決まらない。一生誰かかか。中年こそ思考系、理解系の個性が輝く時期。場所ごとにネットワークがつながり成長する。

・脳教育の新常識4

脳は場所ごとに成長する（脳番地ごとに貯金が貯まっていく）

乳幼児期では、運動系、視覚系、聴覚系、皮膚感覚の4つがしっかりしていないと記憶、感情、理解、思考につながっていかない。

・脳教育の新常識5

動かないでテレビばかり見ている子は脳の中に情報が入らないので貯金が貯まらない。動くだけで脳が成長していく。

0歳～6歳の間には脳の中のネットワークが日々成長している。

体を動かして手足を使い汗をかかないと運動系の番地が育たない。皮膚感覚は情報系の番地につながっていく。いろいろな筋肉を使う事が大切である。

・脳教育の新常識6

子どもは一度聞くだけでは理解できないので、どういうメッセージで伝えるとうまくいくか考えることが大切である。

日本人にとって最低限必要な事は感謝、思いやり、礼節、道徳心の向上である。今の日本人は良識が消えつつあるので、どんな場合でも先生方は正しい良識を持って子ども達と接して欲しいとお話でした。

講演『子ども・子育て支援新制度と私立幼稚園・認定こども園の運営について』

講師 岩手県総務部法務学事課 主事 横田 祐紀 先生



岩手県の私立幼稚園は、平成29年4月1日現在、83園のうち42園が新制度へ移行し、移行率は50.6%です。平成30年

には5園移行し、移行率が約6割となる見込みです。新制度に移行する場合、廃止認可手続きや園則改正が必要となる場合があります。

平成29年度から特色ある幼児教育等振興事業の取り組み区分が変更されました。教育の質の向上を図る学校支援経費は事業費を拡充し、県単独枠も設けています。耐震診断の補

助、耐震改修の補助をしています。

学校で事故が起こった場合、発生当日に、新制度移行園は市町村に、新制度に移行していない園は法務学事課に報告してください。

個人が学校法人に対して寄付をした場合、税額控除できるようになりました。特定公益増進法人の証明が必要です。

講演『幼稚園教諭に求められる資質向上』

講師 岩手県教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事 武藤 美由紀 先生



幼稚園教育要領改訂のキーワードは、土台と保育の質とお話しています。

急激に社会が変化し予測不能な状況でも、子どもたちが自分の人生を精一杯生きていくための力をきちんと身につけていくという考え方で教育が見直しされました。

知識・技能、思考力・判断力・表現力等学びに向かう力、人間性の三つの資質能力を小中高校の段階で橋渡しをしなが

ら育てていく、幼児教育は、その土台となるものとされています。土台という捉えのバックボーンは、非認知的能力の育成という考え方です。

非認知的能力は、乳幼児期に獲得することが非常に重要だという研究がされており、乳幼児期に非認知的能力がバランスよく獲得されている子どもは、社会生活や学習に対して前向きな傾向があると言われています。日本の教育も、幼児教育に重要性を置いた捉えなおしをしています。乳幼児期から幼児期の資質能力をつないでいくという組み立てになりました。幼稚園教諭に求められていることは、4つに整理されます。

まず、幼児教育の資質・能力の系

統性を見通し、全体を俯瞰して三歳児のスタート考えていく。認定こども園教育・保育要領と保育所保育指針を見ることが大事です。次に、三つの教育要領等の共通点の理解を深める。次に、乳児期の保育の内容の理解を深める。

そして、幼稚園から後の小学校を考えて日々の保育を質が高まるように実践の工夫をしていただく意識が求められます。園の明確な理念のもと、職員全体で園のカリキュラムをマネジメントしていく、同時に教職員がスキルアップしていくことが求められています。

講演『平成30年度政府予算(案)における幼児教育振興施策』

講師 全日本私立幼稚園連合会 専務理事 岩田 知也 先生



平成30年度予算案及び29年度補正予算案が決定しました。幼稚園就園奨励費補助は、幼児教育を無償化するので拡大しないという話もありましたが、全日私幼連が運動して拡大しました。約14万人の園児の保護者負担が軽減さ

れます。経常費助成費補助金は、一般補助単価が23,688円、1.0%アップと昨年以上の伸びです。通常のペースアップを超える給与アップをした場合に助成する人材確保の支援は引き続き実施されます。特別支援教育経費、預かり保育推進事業が増額されました。認定こども園施設整備交付金は補正予算とあわせて188億円計上されています。私立幼稚園施設整備費は補正予算とあわせて15億円が計上されています。幼児教育の質の

向上は、幼稚園における2歳児の円滑な受け入れのための調査研究、人材確保のための取組の推進が計上されました。この事業により構築した「幼稚園ナビ」に加盟園のデータ入力をお願いします。2歳児の受入れ(幼稚園接続保育)の補助制度が創設されます。育児休業が2年間となり2歳児の待機児童増加が見込まれるためです。

講演『幼稚園教育要領及び認定子ども園教育・保育要領の改訂について』

講師 岩手県立大学社会福祉学部 准教授 井上 孝之 先生



今回の改訂でも「遊びを通しての総合的な指導」というのは基本的に変わりませんが、「資質能力の柱に沿った幼児教育において育みたい資質・能力の整

理イメージ」が大きなテーマです。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の10項目は『目標』ではありません。幼稚園生活で大事なことは「遊び」で、環境を通して行うのが幼児教育です。発想豊かに、自分なりに工夫する主体的な遊びの保障が重要です。

カリキュラムマネジメントは、教育課程を作成し、指導計画や環境構

成に落とし込んで実現します。その結果見直しや改善を行い、次の計画に反映させていくのです。

常に学び続ける事が本当の専門家だと思います。

新教育要領を熟読し、「遊びが基本」「一人一人に応じて」という事をベースにした子ども主体の保育になっているか見直して行って欲しいと思います。

講演『認定こども園における現状と今後』

講師 株式会社ゆびすいコンサルティング 東京支店統括マネージャー 石川 泰令 先生



総合研修2日目の1コマ目は、株式会社ゆびすいコンサルティングの石川泰令氏をお招きして、コンサルタントとしての視点から乳幼児施設の現状と今後の展望について解説がなされた。まず、現状から言える話題として「こどもの数の減少」が挙げられ、岩手県では2010年を100%と見た場合、2040年には、56.2%まで

減少する見通しとなっている。この数字は、保護者の保育園志向が強くなっている状況を考えると私学助成を受けている幼稚園にとっては、重要な課題を含んでおり、特に2025年には幼稚園の就園率が15%程度低下し、幼稚園へのニーズは60%程度になると推測され、40%近くの幼稚園が不要になることも考えられるとの説明があった。また、「教師志望者数の減少」が指摘され、特に幼稚園教諭への志望者が新卒者の20%程度に留まっており、教員不足が益々深刻化することも考えられ、外部環境

の変化に対応する取組が求められると述べられた。また、教員不足が深刻化すると共に、保育所や認定こども園志向が強まることが予想され、園児募集力に磨きをかけて行くことが望まれると同時に、保育所や認定こども園との人件費格差を念頭に置いて職員の処遇改善にも力を入れて行くことが大切である。このような厳しい状況の中、今後は、繁栄競争ではなく生存競争の時代へ入っていくのではないかと締めくくった。

講演『幼児教育の質を向上させるために～教育要領改訂に際して～』

公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事・武蔵野第一・第二幼稚園 園長 加藤 篤彦 先生



1月12日、公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事 武蔵野第一・第二幼稚園の加藤篤彦園長先生をお迎えして、「幼児教育の質を向上させるために～教育要領改訂に際して～」というタイトル

でご講演いただきました。

本会の冒頭では、平成30年4月から行われる幼稚園教育要領改訂を前に「まずは変わる事、変わらないこと」の理解が必要だと提言されました。また、社会変化の背景や保育構造の理解についても併せて言及され、「何のために幼稚園はあるのか」の存在意味について本質的なテーマや園としての願いや目的を達成するための計画等の具体的なお話

がありました。また、総合的に幼児教育の質を向上させるための新システムとして処遇改善等加算Ⅱや新制度一時預かり事業等に関するご説明をいただきました。

概ね10年に一度のこの改訂に際し、新しい教育要領を知ると共に、ただ知っているだけでなく「子ども理解」の理念を基に「真の教育・真の学び」を実現できるよう、気持ちを新たにさせられる機会となりました。

地区会だより

県北 「多くの人々に支えられて」

県北地区3園（二戸・久慈）は各園の運営形態の事情もあり、地区での研修活動がますます厳しくなっています。こうした中、平成29年10月18日盛岡・県北地区共催による「第21回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会」が開催されました。加藤俊徳先生のご講演から多くのことを学び、各地区の皆さんとも時間を共有することのできた有意義な一日となりました。

園内においては11月10日、年長児がはじめて久慈の郷土料理「まめぶ作り」を体験することができました。まめぶ作りの先生やボランティアのお母さん方にも手伝っていただき、なんと600個もの「まめぶ」ができました。

まめぶ汁200食の大鍋に驚いた子ども達でしたが、何杯もおかわりできる嬉しさが伝わってきました。

今年度も残すところ1ヶ月余り。多くの人々の温かさに支えられ、それぞれの園が3学期のまとめに入っています。

（幼保連携型認定こども園久慈幼稚園 園長 田高美恵子）



『まめぶ部屋』の皆さんと笑顔でハイ！ポーズ

盛岡 「まとめの時期をむかえて」



共に学び合う仲間

盛岡地区教員研修会は、全日私幼研究機構 平成28・29年度の教育研究主題「人生のスタートにこそ良質な教育を」～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問いつづけよう～に基づき、研究テーマ「多様な子どもの受容とクラスの育ちを考える」「発達の連続性を踏まえる保育」「子どもの心を聴く」「遊びの意味と育ちへのつながり」「協同的な遊びと学びの実践」「子どもと共に作り出す環境構成」の6班に分かれ、共に学び合い研鑽を重ねてきました。来る2月17日には、2年継続の研究成果を発表し合う教員研修大会が開催されます。充実した話し合いがなされることや助言者の先生から頂くお話から、さらに実り豊かな学びの時となることを願っています。

そして新年度、全日私幼研究機構より、平成30・31年度の教育主題である「子どもたちの今と未来の幸せをねがって」～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～基盤に、今後も学び合う仲間と共に、さらなる幼児教育の質の向上をめざして研鑽を積んでまいりたいと思います。

（白梅幼稚園 阿部桂子）

中部 常に向上心を持って

北上地区は、毎年各園の先生方の希望を聞いて研修内容を決めています。今年度最初の研修は教育要領の改訂に伴い、盛岡短期大学幼児教育科助教授の岸千夏先生と、岩手県立総合教育センター教科領域教育担当吉田澄江先生に講演して頂きました。全員参加の研修会は難しいので7月と8月と日を変えて行いました。

年明けは「リズム遊び」というテーマで滝沢小学校教諭の阿部みどり先生に実技指導をして頂き、ピアノに合わせて全身を使ったリズム遊びや歌を学びました。

3月は乳幼児の応急手当や、アレルギーの対応について小児科の先生をお招きして学ぶ予定です。

自分たちが望んだ研修会が、先生方自身の自分磨きに役立つことを願っています。

（やさか幼稚園副園長 松岡千鶴子）



子どもたちと一緒にやってみよう！

奥州 「人生のスタートにこそ良質な教育を」



イオン誕生祭でマーチング披露

県南（一関）地区では、8園が3つのテーマに分かれ研究に取り組んでいます。それぞれの園から事例を持ち寄り、そこから、今、子ども達は何を求めているのか、教師の援助はどうあれば良いかなど多面的に読み取り、子ども達にとってのより良い保育を目指して研究を進め、まとめの年を迎えました。

日々の保育に追われ、自分の保育観にとらわれてしまいがちですが、この研究会での他園の先生方からの違う視点で捉えた意見は、とても貴重で、自分の保育を見つめ直すとても良い機会となっています。

来年度は、東北地区教員研修大会で県南地区初の公開保育が行われます。実行委員会も始動し、着々と話し合いが進められています。水沢・一関地区の9園のこども園、幼稚園で開催されますので、元気な子ども達と共に、皆様おいでになるのをお待ちしております。
(愛心幼稚園 力石智子)

沿岸 「地区研究報告会」

沿岸地区では昨年度から「子どもとの温かい信頼関係の構築に向けて」という地区主題について、遠野・釜石地区、宮古・山田地区に分かれ研究してきました。去る1月13日（土）には一堂に会し、4つのグループがその成果を発表しました。又、総合教育センター主任指導主事の吉田澄江先生をお招きし、研究に対する助言と「記録と省察による幼児理解・気になる子への理解」についてご指導頂きました。年間で7回の限られた時間での研究とあって、会の進め方や記録のとり方についての悩みは尽きません。吉田先生からは付箋紙の活用で意見を残すことや、隣席の人と一分間、意見交換すること等も教えてもらいました。

来年度からも、園同士の情報交換をしながら研究の視点を広められるよう、新たな気持ちで努力していきたいと思っております。(そけい幼稚園主任教諭 宮本正子)



ビー玉転がしに夢中

第33回岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 教員研修大会(盛岡大会)《ご案内》

大会主題	「人生のスタートにこそ良質な教育を」 ～保育臨床の視点を大切に、 保育の質を問いつづけよう～	・発表者	大谷幼稚園 教諭 小田島由貴恵 (中部地区)	・発表者	修紅短期大学附属認定こども園 保育教諭 藤野満紀子 (県南地区)
期 日	平成30年3月23日 (金)	・助言者	盛岡大学文学部児童教育学科 准教授 石川 悟司 先生	・助言者	岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 吉田 澄江 先生
会 場	盛岡グランドホテル				
記念講演	演 題 「これからの幼児教育」	【第2分科会】	◆発表テーマ 「発達連続性を踏まえた保育 ～食を通して探る～」	【第3分科会】	◆発表テーマ 「子どもとの温かい信頼関係の構築 に向けて～遊びの中から探る～」
講 師	國學院大学 教授 神長 美津子 先生 (元文部科学省初等中等教育局幼稚園課教科調査官)	・発表者	ふじなでしここども園 保育教諭 菅原あゆみ (盛岡地区)	・発表者	認定こども園宮古ひかり 保育教諭 鳥屋部明子 (沿岸地区)
		・助言者	岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 吉田 澄江 先生	・助言者	盛岡大学短期大学部幼児教育科 准教授 岩崎 基次 先生
【第1分科会】	◆発表テーマ 「『愛されて育つ子どもの姿』とは何か?～自分のことが好きになり、友達の姿も認められる子をめざして～	◆発表テーマ	「豊かな遊びをはぐくむ環境 ～生き物の飼育を通して～」		

●編集後記

今年度のまとめの時期を迎えて大変お忙しい中、平成30年4月1日からの新幼稚園教育要領の施行に備え、最後の準備を進めていることと思います。

昨年は多くの研修会等で、改定の内容やそれに対する取り組みをしている園の様子等、講師を招いてお話を

を聴く機会を持ちました。

幼児教育の方向性を示す羅針盤ともいえる幼稚園教育要領の改定を理解し、各々、学園の建学の精神に基づき、その園ならではの実践計画を立てていきたいものです。

最近よく耳にする、非認知的スキルやアクティブ・ラーニングなど

は、教育の大きな転換でもあると思われ、昨今の目まぐるしい社会変化に対し、俯瞰的にものを見ることが出来る素地を、この大切な幼児期に育んでやりたいと思います。

(政策委員 川村春男)